

編集後記

幸いにも、伝統ある地理思想科研の系譜を有する科研が、本教室の山野正彦研究代表のもと、2002-2004年度の3年プロジェクトで採用された。この科研グループによる財源的バックアップがさらに3年継続することにより、本雑誌の継続が可能となった。「改装オープン」という気持ちで、7号の再スタートが切れることになった。前回に掲載できなかった翻訳を今回載せたほか、名古屋大学の岡本耕平さんのお申し出で、GIS論争の特集を組めたことは、本誌に新たな息吹を与えていただいたと感謝している。

GIS最前線は、ノーマルな地理学教室においては、はるかにかすんで見えないし、追いつくことはもはや到底不可能である。計量革命の当時も同じことであつたかもしれないが、そもそも追いつけるような技術教育のノウハウを、文系地理学はハナから用意していない。関西リージョン地理学連合大学院でも作らない限り、そうした教育体制を小規模地理学教室が準備することは不可能である。しかし運良くCOEなる世界的研究拠点形成のチャンスにあずかった当大学院も、GISデータベースの構築は、多いに期待されている。利用の効用を注意深くまた積極的にアピールしてゆく、そうしたアピールの裏づけにフィールドワークがあるというような、大雑把なことしかまだ言えない「わが社」の状況であるが、GISから文化社会地理、歴史地理から都市地理、地域研究、環境、災害研究などを網羅した、スタッフ20名、院生60名規模の地理学大学院コンソーシアムでもできたら、さぞかしすばらしいことかと思われる。学会に対するCOEみtainな企画の想定されることを、人文地理学会が見越して、そうした地理学のコンソーシアム企画の音頭をとっていただけないものであろうか。喜んで南大阪キャンパスをお引き受けします、と。

思わず現実バナシをしてしまったが、全国の地理学の志士は、どんどん本雑誌に寄稿していただければ幸いである。また全国の教室で英語講読をされておられるその翻訳ストックもどんどんお送りください。下記メールまでお知らせいただければ、すぐ対応いたします。

今回の編集は全面的に、OBの花野氏にお世話になった。心よりお礼を申し上げます。「改装オープン」ということもあり、発行日付がいつもの年度末より、年度内に変更されたこともお伝えしておきたい。またPDF化も行なっているので、そちらのほうもご利用いただきたい。<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/books.htm>

水内 俊雄

空間・社会・地理思想 第7号

発行日 / 2002年10月31日

編集 / 水内 俊雄・花野 孝史

発行 / © 大阪市立大学大学院 文学研究科 地理学専修

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

電話 & ファックス 06-6605-2406

振替 00960-9-72384

(加入者名：大阪市立大学地理学教室)

geo-ocu@lit.osaka-cu.ac.jp

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/>

印刷 / ホウユウ(株)

〒590-0982 堺市海山町 1-8-4

電話 072-227-8231 ファックス 072-224-1466
